

日 時：令和3年3月26日（金）午前10時00分～午前11時20分

場 所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室

出席者：委員7名（欠席2名） 支援組織3名 その他関係者1名 事務局3名

第1層コーディネーター2名 （その他：傍聴者2名）

※新型コロナウイルス感染症に対する対策として密になることを避けるため
会議出席の事務局は人生100年推進課のみとした。

配布資料

- ・ 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体委員名簿
- ・ 資料1 市内第2層協議体の活動状況および各協議体の広報紙やチラシ
- ・ 資料2 生活支援体制整備に関わる課題について
- ・ 資料3 今後の取り組みについて

会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
 - (1) 大和市における第2層協議体の活動状況について・・・資料1
 - (2) 生活支援体制整備に関わる課題について・・・・・・・・資料2
 - ①協議体設置済み地域の課題
 - ②協議体未設置地域の課題。
 - (3) 今後の取り組みについて・・・・・・・・資料3
 - (4) その他
4. 閉会

会議内容

1. 開会
2. 異動に伴う事務局職員の自己紹介
3. 会長挨拶
4. 議題

会 長：議題（1）大和市における第2層協議体の活動状況について、事務局から説明をお願いします。

◆資料1（市内第2層協議体の活動状況）に沿って事務局から説明。

事 務 局：事務局から市内第2層協議体の活動状況について説明を行いました。本日出席の委員、支援組織の方の中に、活動に関わっている方もおられるので、補足説明等をお話いただけますでしょうか。

会 長：つきみ野地区においては、昨年「カフェハート」を立ち上げ、月・水・金曜日にボランティアの方が自主的に活動しており、毎回10名程の参加者がいます。ま

た、平成29年の協議体立ち上げより5年ぐらい前に、自治会でお助け活動を立ち上げており、それが今のお助け隊の前身となりました。

事務局：自発的というところが重要なキーワードであると捉えています。

委員：福田北地区の今年度の状況としては、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の為、活動が制限されました。日頃、不特定多数の方が来所するので、コーディネーターへの感染防止対策として、2回目の緊急事態宣言期間中は窓口は閉め、コーディネーターが拠点で電話相談のみを実施することとしました。コーディネーター達は、いつも来所くださっている方のことを気にかけているところがあって、これからどの様に活動していくかということ話し合っていました。宣言解除後は、来所窓口を再開したけれども、コロナ対策のため、余り長い時間のお話しはできず、お茶も出せないという形での対応となっています。今後の状況がどの様になっていくのかという心配がかなりあります。地域で集いの事業が出来ない状況である中で、地域の拠点として何が出来るかという事を今後模索していかなければならないと思っています。

事務局：この1年間、コロナの影響で、大変苦勞された中、色々な工夫をしていただいたと思います。今後、ワクチン接種が始まりますが、コロナの終息の見通しがわからない状況の中、コロナも在りながら活動して行かなければいけないという課題もありますので、皆様と協力していければと思います。

会長：第2層協議体の活動状況について説明がありましたが、ご意見やご質問などはありませんか。

委員：交流スペースとして、「カフェハート」のお話がありましたが、場所は何処で開催されているのでしょうか。

会長：国道16号沿いで北大和小学校の道路向かい側にある「ハート公所つきみ野」の拠点内です。

委員：準備会として拠点の準備をなさっている中で、拠点の設置場所に関して気にされている質問かと思しますので、福田北地区のことをお話しすると、福田北地区では地域の真ん中に設置するということを目指しました。その中で、地域の真ん中で駅の側という点から桜ヶ丘駅前に拠点となる場所を探しました。

委員：上草柳地区においては、4年ほど前から活動を始め「上草柳ふれあい協議会」と名称を決め、昨日14回目の準備会を開催したところです。

コロナ禍でなければ令和2年度中に地域の各団体に説明に赴き、協議体を設置出来るところでしたが、来年度改めて進めていきたいと思いますという事になりました。

会長：ほかにはよろしいですか。

それでは議題（2）生活支援体制整備に関わる課題について事務局から説明をお願いします。

◆資料2（生活支援体制整備に関わる課題について）を用いて事務局から①協議体設置済み地域の課題および②協議体未設置地域の課題を説明。

引き続き、支援組織の大和市社会福祉協議会（以下「社協」という。）から地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）と協議体の関係性について説明。

事務局：事務局及び社協から説明を行いました。生活支援体制整備に関わる課題につい

て、協議体が設置されている地区の支援組織として密に関わってこられている地域包括支援センター（以下「包括」という。）及び、未設置地域の包括から、それぞれご意見を伺えればと思います。

支援組織 : 支援組織として、包括の担当地域となる中央地区に関わらせていただいた内容を報告出来ればと思います。

事務局と社協から説明がありましたように、第2層協議体の役割・機能という部分で地域の福祉課題の抽出・現状が挙がりました。事務局からの活動報告でもありましたが、包括が主催する地域ケア会議に第2層協議体のコーディネーターにも参加いただき、在宅に住む高齢者の生活にどのような地域課題があるかということを含めて共有してまいりました。課題に対して、地域でどのような取り組みが出来そうか、どんな社会資源があるのかということを含めて、第2層協議体の中で検討していただくことに繋がられたかと思っています。実際に、地域ケア会議で、認知症が疑われる高齢者ドライバーに関する課題が挙げられた中で、自動車を運転しなければ買い物に困難するご高齢の方が地域に多くいるのではないかということから、買い物を支援するための第3層立ち上げによる課題解決に向けて、ワーキンググループが発足しました。支援組織として、包括もワーキングに参加させていただきました。第3層の活動として新しい事業を創設する上では、支援するための車両やドライバーの確保など、様々な課題がありました。包括としては、母体が社会福祉法人であるということもありましたので、課題解決に向けた繋がりをさせていただきながら支援組織として関わらせていただきました。

また、個別支援については、これまでも地区社協にて個別支援の取り組みがありましたが、なかなか相談が入らないという状況で、ニーズとのマッチングというところに課題がありました。地域にお住まいの高齢者にどんなニーズがあるのか、既存の社会資源としてどういったサービスがあるのかといったところの情報収集・発掘するために、専門職との連携として、地域で高齢者支援をするケアマネージャーや訪問介護事業所の方を招いて意見交換の場を、包括と地区社協の共催で開催させていただきました。その中で、実際のニーズや既存の社会資源の利用の実態を専門職の方からヒアリングしていただいて、今後の地区社協の個別支援として、ニーズとサービスのミスマッチが起きないか、ボランティアの方がニーズに対してどういった活動が出来そうかといった支援活動の方向性を検討するための情報収集・意見交換会の場が設置できたかと思っています。昨年12月から、新しい個別支援活動がスタートしたのですが、コロナ禍で依頼が入りづらかったり、まだまだ周知が足りなかったりといった課題も残っているので、令和3年度は、圏域を対象とした地域ケア会議を専門職と共に開催することを予定しています。

会 長 : 第2層協議体としては、包括は本当に強力な助っ人で、いつもお世話になっています。協力して活動して行きたいと思っています。

支援組織 : 桜丘・和田包括は、桜ヶ丘駅から高座渋谷駅までの横浜市側のエリアを担当しております。協議体の発足はありません。当該エリアに関しましては、高齢者の約6,800名いらっしゃる、交通手段が無い、金銭を引き出せないということがニ

ーズとしてあります。課題としては、高齢化率が市の平均より6%高いということ、上和田団地・いちよう団地といった1,300世帯のマンモス団地を抱えている中で、単身の高齢者が増加をしているということがあります。地域の担い手となる方も高齢化しており、高齢者が高齢者を看るといような状況になります。今後の第2層の発足に関しましては、市や地区社協と話をしていかなければならないとは思いますが、実際の状況としては、進捗は無いと捉えています。

会長：高齢者の問題が出ましたけれど、2025年問題として団塊の世代が75歳になるまでに協議体を設置していく必要があると思います。

ほかに何か意見はありますか。

委員：福田北地区協議体は桜ヶ丘駅の西側にありまして、東側が桜丘・和田包括の地区になります。これまでに、東側の地区の方が「ここさば」へ相談に来所された事例が数件あり、桜丘地区を担当する民生委員の会長に連絡し、解決していただくというような事がありました。協議体が未設置の地区の方から相談があれば、そういった形で対応しています。その他、高座渋谷駅から電車に乗って相談に来られた方も何名かいらっしゃった状況があります。

委員：未設置の地域が相談を始めてから設置までには時間がかかるという状況がありますので、地区社協の方に設置に向けた協力をいただけるということは、実質的に進める上で中心になり引っ張っていただける部分かと思えますのと、それぞれの地域性もありますので、そういったことをわかっている所で具体的に進めていく必要があると感じています。第1層協議体としてそこをしっかりと見て、よりスピーディーに行かないと間に合わないと思います。高齢化が進んでいく中で、住民に理解していただくのは非常に難しく、まだ、「協議体とは何か」という状況なのかなと思っておりますので、もう少し積極的に行っていく為には、やはり地区社協のノウハウというの大きいので、一緒にやっていかなくてはいけないと思います。民生委員のように認識している方だけではなく、地域に認識を広げていくには難しい問題も増えていくと思われまますので、強力に連携し合わなくてはいけないと思っています。

会長：整理しますと1番目の周知の仕方はどんな方法があるかという事について、「ハート公所つきみ野」では、2ヶ月に一回発行されている自治会だよりも毎回、協議体の内容を載せていますが、なかなか浸透しません。そこで、「ハート公所つきみ野」の紹介のDVDを作成してみました。内容としては、関係者向け(17分)、(訪問客・ボランティア向け(11分)の2通りを作成しました。これも一つの広報手段であり、色々な方法を使った広報をしていかななくてはと考えます。

2番目の生活支援コーディネーターについては、協議体を仕切っていくことが必要になる比重が高いので、コーディネーターは色々なことを勉強する必要があると思います。

3番目の財源に関して、「ハート公所つきみ野」の「お助け隊」では、1時間に1000円を貰って、200円を共益費、800円をボランティア報酬として実施している。色々な仕組みを第3層で考えて、半分ボランティア半分有償といった仕組みを取れば十分やっていけると思います。

最後に、地区社協と第2層協議体との違いについてですが、第2層協議体は住民のニーズを把握して支援サービスとマッチングさせること、地区社協は第2層の面と第3層の面があるので、最初から分けることはせず、第2層協議体でマッチングして、専門的になったら第3層としての活動がある地区社協に相談に行くような関係であればよいと思います。第2層はこうあるべき、地区社協はこうあるべきと決めつける必要はないと考えます。

よろしいですか。

それでは議題（3）今後の取り組みについて事務局から説明をお願いします。

事務局：会長から周知について、色々なチャンネルで行っていく必要があるというお話をいただきました。今年度につきましては、コロナ禍において地域に行くことが難しい状況でした。新しく芽生えた地域の勉強会について協議体委員にご協力をいただいたところ、緊急事態宣言が発出されるなど、なかなか難しい状況でした。来年度は周知や理解の促進を進めていくという事に重点を置くよう考えていきたいと思えます。

◆資料3（今後の取り組みについて）を用いて事務局から説明。

市としての取り組みは以上です。引き続き、社会福祉協議会にもご協力をいただきながら研修を考えていきたいと思えます。現時点で社協で考えている内容をご案内願います。

支援組織：まずは、これまでの研修を報告させていただきます。昨年は協議体の生活支援コーディネーター、未設置地域の地区社協を中心に研修を開催しました。コーディネーターの意見交換では、お互いの協議体がどのようなことを実施しているか知りたいという意見が非常に多かったことを受けて、南林間地区とつきみ野地区の2つの協議体から実践報告をいただきました。

今年度については、コロナ禍の緊急事態宣言の合間の11月7日(土)に「生活支援コーディネーター研修会」を開催し、中央地区と福田北地区の2つの地区の協議体から実践報告をいただいたところです。お互いの活動を知るということは非常に有効であるというご意見をいただいている一方で、どのように拠点活用をしているか見に行きたいというご意見もいただきましたが、コロナの状況が収まらないと難しいかと思っています。来年度につきましては、現任のコーディネーターの方を対象に、お互いの拠点を知るといようなテーマを一つと考えております。また、関係機関・専門機関の連携が重要であると意見もいただいているので大和市内に在ります高齢者支援の専門機関あるいは専門職がどのような取り組みをしているのかということも現任のコーディネーターの方が学ぶ場を設けたいと考えています。

さらに、未設置地域につきましては、2つの方法で考えており、地区社協、自治会、民生委員を中心にした関係者向けの研修と、未設置地域の包括支援センターの方を対象とした学びの場を人生100年推進課と相談しながら進めて参りたいと思えます。今年度計画に載せておりました事例集につきましては、コロナ禍の影響で作成が出来ておりませんので、来年度以降に取り組んで参りたいと考えています。

会長：コーディネーター研修に関しては、県でも実施しています。県の考えるコーディネーターは、組織の職員の方が担う事が多いが、大和市は一般の住民の方

が担っています。そういった意味で、コーディネーターの資質がこれから重要になると思うので、その辺を期待します。いつでも拠点に来所ください。説明させていただきます。

委員：地区社協と民生委員が行っている内容とコーディネーターが行っている内容が、オーバーラップしてしまいます。現実的に、何かあった時には民生委員に相談すれば対応してくれているということで、民生委員がコロナ禍においても密にならないような形で対応しています。協議体については、あまり知らないという人が多く、いかに周知が出来ていないかということだと思います。例えば、イオンで一般の市民の方に「協議体のことをご存じですか」とアンケートを取ると、ほとんどの方から「知らない」という回答が出ると思います。そうすると活動が非常にやりにくくなってしまいますので、こういった取り組みは凄く素晴らしいので、出来ればもう少し周知をしていけないものではないでしょうか。ホームページなどデジタル媒体で紹介されてしまうと、高齢者が情報を得るのは難しいので、アナログ的な方法の方が周知しやすいのではないかと思います。民生委員として廻っていても、スマホ、FAX、パソコンなどは無いという1人暮らしの高齢者が多く、紙を渡して説明することが多いので、その辺も協議体の取り組みを周知する方法として検討してもらおうと非常に有り難いと思います。

委員：おっしゃられたことはよくわかりますが、第2層協議体というのは、各団体が相談出来る場でもありまして、福田北地区で協議体を立ち上げてから、地区社協と民生委員の関りが密になることが出来ました。理由としては、それぞれが話し合う機会が非常に増えたということがあると思います。地区社協の理事や部会員の方でも、地区社協の活動と協議体の活動の区分けが解からないという方が殆どです。今回、社協にて関係性についてまとめ、整理していただいたので、今後、地区社協で活用していけると思います。そこが分かり易くなってくれば、それぞれの特性に応じてもっと住みやすい地域づくりが出来るのではないかと思います。

委員：資料があれば、理解される方が少しは出てくるとは思いますが、今まではこのような資料自体が無かったので理解できていない方がいるということも現実だろうと思います。地区社協と民生委員は、ふれあい訪問など色々な形でタイアップしており、地域としては一つになっているつもりですけど、そういう話し合いがもっと積極的に出て、スクラップ&ビルドでどちらがどういう形で実施するかということが整理出来るようになれば、お互いが効率的になると思います。または、ダブルで実施するというので、高齢者に対して2つの目、3つの目で見るという形になれば、よりフォローしやすくなるのではないかと思います。これから色々課題があると思いますが検討し進めていかなくてはならないと思います。

委員：やはり周知が大事だと思います。広報やまとや社協だよりなどを活用して、第2層の在り方や地域に住んでいる方の暮らしにどのように関わってくるのかなどを分かりやすく書いた広報媒体を出していただくとありがたいと思います。上草柳地区の準備会においても、最初の頃は自治会長から「自分達でやってきているのに、改めて協議体を作る必要はあるのか。」という話が出ていましたが、最近では、前から準備会に携わっていた自治会長が新任の自治会長に協議体について説明

してくれるようになりました。自治連も民生児童委員の方も含めて、そういうようなところで啓発していくことが大事だと思います。

委員：すでに協議体が出来ている地区でのこれまでに苦勞された話も、これから作ろうとしている方達の参考になると思いますので、そういったことも活用していただいて、如何に地域で皆が助け合う形が作れるかを考えなくてはいいませんが、自分たちの事としてやれるということが大和市の良いところだと思います。地域性もいかして自分たち住民が作れるようなものを今まで頑張ってきた方たちも含め作って欲しいと思っています。

会長：それでは議題（４）のその他に移ります。
その他として何かありますか。

<特になし>

会長：では、本日の議事を閉じさせていただきます。

4. 閉 会

職務代理あいさつ